

地域住民に対する、医療福祉・健康に関するニーズ調査 —予備的調査研究—



澤 龍一¹⁾

牧原 由紀子¹⁾, 西田 裕介¹⁾, 乗松 祐佐¹⁾, 河野 健一¹⁾, 志村 圭太¹⁾, 宮森 隆行¹⁾, 竹内 真太¹⁾

1) 国際医療福祉大学 成田保健医療学部 理学療法学科

E-mail: ry-sawa@iuhw.ac.jp

調査目的

本学の基本理念の一つとしてあげられている

「社会に開かれた大学」として、地域社会のニーズに応える

活動をしていくことは大学の責務である。**成田キャンパスは、これから成田という地で地域社会に根付いていく必要がある。**

公開講座のような一方向性の活動も重要であるが、地域住民のニーズに合わせた大学・地域の双方向性の交流も必要である。

しかし、現状として成田キャンパス周辺地区の大学に対するニーズは把握できていない。開学時に周辺地域住民のニーズを捉えておくことで、次年度以降にニーズに合わせた活動を大学という施設を用いて実施することができる。それにより地域住民は大学を知ることができ、大学職員や学生は地域住民と交流ができるため、双方向性の交流をしながら、大学として地域に根差していくことができ、また行政の求める地域活性の観点からも非常に有意義であると思われる。

そのため本調査は次年度にむけた予備的調査研究として、

地域住民を対象とした大学に求めるニーズ調査を実施することを目的とした。

方法

調査方法：選択式アンケート調査

(複数回答可、一部自記式)

調査対象：地域住民111名

(女性81名、平均年齢51.1±19.8歳)

平成28年度に国際医療福祉大学成田キャンパス周辺で開催した地域公開講座等の参加者を対象に調査を実施

調査内容：世代ごとに以下項目で必要な項目を選択

「大学生との交流会・お悩み相談会」「健康・運動教室」「公開講座」「特に必要ない」

世代カテゴリー：3カテゴリーに分類

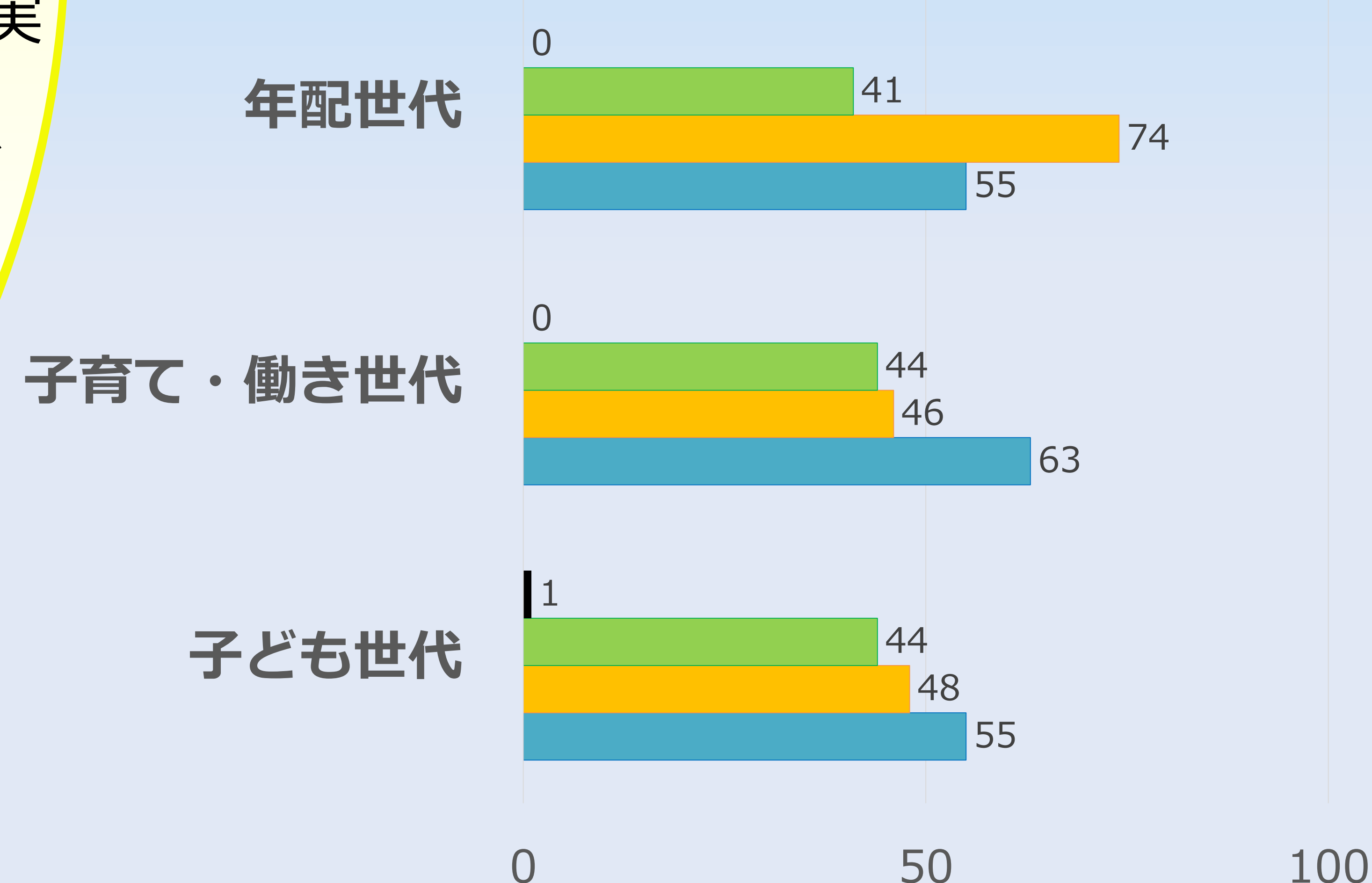
「子ども世代」「子育て・働き世代」「年配世代」

回答者自身が含まれるカテゴリーは**回答者が必要な項目**を選択
それ以外のカテゴリーは**回答者が必要と感じる項目**を選択

結果

表1. 対象者情報

回答者年齢	人数 [割合]
20歳代以下	22名 [19.8%]
30歳代	15名 [13.5%]
40歳代	17名 [15.3%]
50歳代	7名 [6.3%]
60歳代	22名 [19.8%]
70歳代以上	28名 [25.3%]



■ 特に必要ない

■ 健康・運動教室

■ 公開講座

■ 大学生との交流会・お悩み相談会

子ども世代について回答が多かった選択肢は「大学生との交流会」が最も多く、55名の回答を得た。子育て・働き世代においては「お悩み相談会（子育て・介護など）」が最も多く、63名の回答を得た。一方で年配世代においては「健康・運動教室、体力測定」が最も多く74名の回答を得た。

結論

成田キャンパス周辺地域は比較的新しくできた地域であり、そのため若い世代も多く生活している。若い世代と年配世代ではニーズの違いが結果として生じており、そのため**世代に応じた地域貢献を本学として取り組んでいくべき**と考えられる。